

本一かわら版

令和5年10月号
(第51号)
発行：本所一丁目町会
発行責任者：岩野全克
編集：福原雅美
竹内沙絵子



令和五年牛嶋神社大祭のご報告

本所一丁目町会 町会長 鈴木 慎太郎

九月十日(日)から十八日(月)に亘り牛嶋神社大祭が行われました。大きな事故もなく大祭を終了することができ、まずは安堵しております。行事に参加された方々、準備から当日の執行、後片付けまでご奉仕くださった方々、様々なご協力をいただいた方々、奉納をいただいた方々に心より感謝申し上げます。

二〇二〇年から三年間、新型コロナウイルス感染拡大のために祭礼は実施されませんでした。昨年は、祭礼を行ってほしいとの大きな声の中、喧々諤々の議論の末、実施は断念されました。今年三月に牛嶋神社の氏子の会議で、一年延ばしの大祭の実施が決定し、「さあ、いよいよコロナ禍が終わる」との思いとともに、その知らせを持ち帰れることに喜びと大きな責務を感じたことが昨日のように思い出されます。

五月の総会後から大祭の準備が始まりました。準備を進める中で改めて三年の空白の大きさを感じました。この間に役員の交代もあり、六年ぶりの大祭の準備には、忘れてしまったりわからなくなってしまうこともありました。直前まで準備で大わらわでしたし、当日にも様々なハプニングが起こり慌てることもありましたが、そのたびに皆の知恵と力を寄せ合い、乗り越えてまいりました。

十五日の鳳輦の巡行は、暑さのために鳳輦が立ち往生し、また雷雨に見舞われ中止となりました。稚児行列に参加するために装束を身に付けて待機していた子どもたちとご家族にはお気の毒なことでした。宵宮には関係者一同が集い、いよいよ祭の本番へと心一つにしました。

翌日には雨も上がり、中神輿、小神輿、大太鼓の町内渡御が行われました。夜にはビッグシップ前でお祭り広場が開かれ、老若男女多くの人が訪れました。

そして十七日、牛嶋神社への連合渡御が盛大に行われました。およそ六百人が行列に参加し、氏子一の大きな神輿を牛嶋神社に見事に担ぎ入れました。その荘厳かつ威風堂々たる姿を見た人は、本所一丁目に住むことに誇りを感じたことと思われれます。午後には、小神輿や大太鼓とともに町内をめぐりました。夜には奉納踊りが行われ、大きな踊りの輪ができました。威勢の良い太鼓とともに大きな掛け声も響き、時間いっぱい盛り上がりました。近隣の方々の寛容なお心に感謝いたします。

今後に向けての反省点もあります。祭礼の準備には町会の各部や各会が協力しますが、役割を分担し円滑に連携を進めるには、担当者の組織化が必要です。今後はこの組織づくりを検討していきたいと思えます。また、祭礼に参加したいと思っている住民の方たちを巻き込むことも考えていきたいと思えます。

最後に、祭礼は宗教的な行事なので、できるだけ皆様からの奉納金によって費用を賄いたいと考えています。大祭には多くの費用が掛かりますが、今年は奉納金にもコロナ禍の空白の影響がうかがえました。皆様の祭りを皆様の手で継続していけるよう、今後もご厚志を賜りますようお願い申し上げます。



さようなら、ありがとう、ライオン

ーライオン株式会社移転にあたりー

本所一丁目町会 副会長 山中みどり

本所一丁目のライオン株式会社が今年度をもって蔵前に移転し、建物が取り壊されます。

ライオンは、一九三四年に前身である株式会社小林商店の東京工場が現在の場所に竣工されて以来、永らくこの地にて発展を遂げられてきました。

一九七一年に竣工されたライオン歯磨株式会社(のちにライオン株式会社)の白く輝く本社社屋は、どこからでも見える本所のランドマークとして地元町民に愛され、日本を代表する企業の一つであるライオンがあることは、町の誇りとなってきました。ことに本所一丁目は、近隣へのご配慮、町会行事へのご協力をいただき、親しみを感じてまいりました。あの見慣れたビルがなくなると思うと寂しい限りです。

この度、ライオン株式会社の移転にあたり、町会としてお別れのご挨拶をする機会を設けることにいたしました。毎年ご寄付をいただいていた祭礼は、永きにわたるご厚誼を記念するにまことにふさわしいと考え、祭礼の前夜祭ともいえる宵宮に、ライオン株式会社取締役兼上席執行役員である小林健二郎様他一名をご招待いたしました。小林様は、ライオンの創設者の五代目にあたります。

これを聞いて、山本亨区長もご挨拶を交わしたいと宵宮に参加されました。ライオンは墨田区にご協力されており、かねてより山本区長と交流を持たれていました。小林様からは、「湿っぽいお別れではなく、移転後もご縁を繋ぎたいと考えているので今後もよろしく」とのご挨拶をいただきました。

大祭中は、これまでにライオンにご奉納いただいた名入り提灯を、町会からの感謝と惜別のメッセージとともに、お祭り広場の中央に飾りました。

ライオンの広い跡地には、複合施設が建設される予定であり、墨田区の新しい街づくりの拠点として、区とも協力して計画が進められています。新しいランドマークとなって、町に新しい波を生み出していくことでしょう。



令和五年牛嶋神社大祭を終えて

本所一丁目育成部 部長 小河原 豊

九月十四日から十七日まで行われた大祭ですが、事故なく子ども達が楽しんで終了する事ができました。育成部はお祭り実行委員会に加わり、大太鼓・花神輿・小神輿・お祭り広場・奉納踊りの運営を手伝わせていただきましたが、部長である私の経験不足から育成部員は日々不安の中、幹部はじめ全部員がゼロから手探りで築きあげていきました。女性部の方々にリードいただきながら、町会幹部・青年会・育成部OBOOの方々を中心に、町民の皆様にも温かくご指導お手伝いをいただきなんとか無事終了できたことあらためて感謝いたします。

今回のお祭りで非常に印象的だった事が二つあります。一つは例年以上に参加された方が笑顔で、厳しい表情をしている方が皆無だったこと、もう一つが若い方・初めて参加された方が非常に多かったことです。その人たちにお話しを伺うと「楽しかった。もっと早く知ることがかった。どのように関わればいいのか分からなかった。」と異口同音におっしゃっていました。参加すれば楽しいイベントであることの自信と同時に、情報発信が足りなかったことを反省し来年のお祭にはより多くの新規参加者を増やすことを目標にしたいと思います。

大祭後、育成部内サークル魁太鼓の保護者会が開かれ、長年魁太鼓代表をつとめた安川さんが退任し、花田さんが代表、森合さんが副代表となることが発表されたことを、この場を借りてお知らせいたします。

最後になりますが、子ども達・町民の方々がさらに安心・安全・楽しく街になるよう育成部一同尽力してまいりますのでご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。



牛嶋神社礼大祭連合渡御

本一睦会 会長 岡崎 修一

コロナ禍で一年延期になった牛嶋神社例大祭が無事に執り行われました。前回平成二十九年の大祭は生憎の大雨に見舞われ、ずぶ濡れでの連合渡御宮人になってしまいました。今回はなんととしても天気にも恵まれた一心で、雨男と云われる鈴木町会長、私と睦会、青年会数人で高円寺にある日本唯一の氣象神社へ祭礼期間中の晴天祈願に行き、絵馬を奉納してきました。しかし鳳輦巡行、お稚児さんは残念ながら雷雨に見舞われ前例のない十一カ町が中止になるという結果になり、祈願したにも関わらず不本意な幕開けになってしまいました。翌日の土曜日の山車の町内渡御から月曜の後片づけまでは、熱中症の心配をするくらいにの好天に恵まれ、すべての祭礼行事が滞りなく行うことが出来ました。

さて大神輿連合渡御ですが、日曜日の朝早くから町会、青年会、同好会の担ぎ手が大勢集まり記念撮影後、町旗を先頭に定刻に出立することが出来ました。道中、神輿とその前の間が開いてしまい、行列が間延びしてしまった時間帯もありましたが、ほぼ時間通りに境内に入り大神輿を本殿に向け高らかに差し上げることが出来ました。大変満足のいく宮人が出来たと私なりに思っております。これも大祭の数か月前より準備に当たり、当日町会や関係者の思いが一つになった結果だと思えます。お力添えいただいた全ての皆様はこの場をお借りし感謝申し上げます。

十一月には神輿蔵から山車や神輿をもう一度外に出し睦会を中心に清掃、点検を行います。今後とも睦会一同が一丸になり祭礼運営のお手伝いをさせていただきますのでご協力をお願い致します。

